

# 日程表 令和6年2月11日(日)

会場：佐賀大学医学部臨床大講堂

9:55-	開催挨拶 大会長：松尾 宗明
10:00-10:20	会長講演 「神経線維腫症1型の包括的診療」 演者：松尾宗明
10:20-11:00	一般演題Ⅰ 座長：生田国大 演者：G-01 伊藤勇人 G-02 橋本将吾 G-03 大池直樹 G-04 箱崎道之
11:05-12:05	特別講演 Status of medical therapies for NF1 related plexiform neurofibromas 座長：西田佳弘 演者：Brigitte Widemann
12:05-13:05	昼食・休憩 【12:35-13:05 理事会（佐賀大学管理棟3階 3A会議室）】
13:05-13:15	庶務報告
13:15-13:45	患者家族会からの講演 座長：佐谷秀行 演者：F-01 大河原和泉 F-02 本間俊典
13:45-14:35	一般演題Ⅱ 座長：瀬戸俊之 演者：G-05 渡邊淑識 G-06 大澤太郎 G-07 二川摩周 G-08 緒方大 G-09 鈴木 崇
14:40-15:50	シンポジウム「多職種・多診療科によるNF1の包括的診療」 座長：松尾宗明 演者：S-01 三原睦子 S-02 馬場遥香 S-03 生越章 S-04 城所博之
15:55-16:45	一般演題Ⅲ 座長：谷戸克己 演者：G-10 肥田時征 G-11 堺則康 G-12 江原由布子 G-13 平山愛里彩 G-14 松田亜依
16:50-18:00	共催シンポジウム「NF1の移行期医療」 (アレクシオンファーマ合同会社 メディカルアフェアーズ本部) 座長：今福信一 演者：CM-01 武内俊樹 CM-02 瀬戸俊之 CM-03 吉田雄一 CM-04 西田佳弘
18:00-	閉会挨拶 大会長：松尾 宗明

# 第15回レックリングハウゼン病学会学術大会プログラムプログラム

令和6年2月11日(日)

開会の辞 9:55 - 10:00

大会長 松尾 宗明

会長講演 10:00 - 10:20

神経線維腫症1型の包括的診療

松尾 宗明

佐賀大学医学部小児科

一般演題 I 10:20 - 11:00

座長 生田 国大(名古屋大学医学部整形外科)

G-01 レックリングハウゼン病に合併した胸腔内髄膜瘤の1切除例

伊藤勇人、森本忠嗣、平田寛人、塚本正紹、吉原智仁、馬渡正明

佐賀大学医学部整形外科

G-02 当院での神経線維腫症1型(NF-1)を伴う脊柱側弯症の外科的治療戦略と治療成績

橋本将吾、鈴木悟士、武田和樹、大久保寿樹、尾崎正大、辻収彦、名越慈人、

松本守雄、中村雅也、渡辺航太

慶應義塾大学整形外科

G-03 神経線維腫症患者における悪性末梢神経鞘腫の発症を疑う臨床所見の探索

大池直樹<sup>1)</sup>、生越章<sup>1,2)</sup>、有泉高志<sup>1)</sup>、村山雄大<sup>1)</sup>、宮崎友宏<sup>1)</sup>、川島寛之<sup>1)</sup>

<sup>1)</sup>新潟大学整形外科、<sup>2)</sup>新潟大学地域医療教育センター魚沼基幹病院整形外科

## G-04 悪性末梢神経鞘腫における COX-2 発現と選択的 COX-2 阻害薬の抗腫瘍効果

箱崎道之<sup>1,2)</sup>、金内洋一<sup>1)</sup>、小川到<sup>1)</sup>、鈴木丈夫<sup>1)</sup>、松本嘉寛<sup>1)</sup>

<sup>1)</sup>福島県立医科大学医学部整形外科学講座

<sup>2)</sup>福島県立医科大学医学部東白川整形外科アカデミー

特別講演 11:05 - 12:05

座長 西田 佳弘 (名古屋大学医学部附属病院リハビリテーション科)

### Status of medical therapies for NF1 related plexiform neurofibromas

Brigitte Widemann

Pediatric Oncology Branch, Center for Cancer Research, National Cancer Institute, National Institutes of Health, Bethesda, MD 20892, USA

昼食・休憩 12:05 - 13:05

【 理事会 12:35-13:05 】

庶務報告 13:05 - 13:15

患者家族会からの講演 13:15 - 13:45

座長 佐谷 秀行 (藤田医科大学がん医療研究センター)

### F-01 患者・患者家族の声を聞き変革していく仕組みづくり

大河原和泉

レックリングハウゼン病患者会 To Smile

### F-02 希少難病患者家族と共に半世紀

本間俊典

一般演題Ⅱ 13:45 - 14:35

座長 瀬戸 俊之 (大阪公立大学大学院医学研究科臨床遺伝学)

**G-05 叢状神経線維腫に対する Takinib の抗腫瘍効果**

渡邊淑識<sup>1)</sup>、中條聡美<sup>1)</sup>、鈴木彩子<sup>1)</sup>、延山嘉真<sup>1)</sup>

<sup>1)</sup>東京慈恵会医科大学 皮膚科学講座

**G-06 神経線維腫症 1 型患者由来ヒト iPS 細胞株の樹立**

大澤太郎<sup>1)</sup>、中田英二<sup>2)</sup>、岡本真幸<sup>1)</sup>、山田大祐<sup>1)</sup>、二川摩周<sup>3)</sup>、高尾知佳<sup>1)</sup>、  
平沢晃<sup>3)</sup>、尾崎敏文<sup>2)</sup>、宝田剛志<sup>1)</sup>

<sup>1)</sup>岡山大学学術研究院医歯薬学域 (医学系)・組織機能修復学分野

<sup>2)</sup>岡山大学学術研究院医歯薬学域 (医学系)・整形外科学分野

<sup>3)</sup>岡山大学学術研究院医歯薬学域 (医学系)・臨床遺伝子医療学分野

**G-07 遺伝性骨・軟部腫瘍外来における肉腫発生 at-risk 者への取り組み**

二川摩周<sup>1)2)</sup>、中田英二<sup>3)</sup>、山本英喜<sup>1)2)</sup>、深野智華<sup>1)2)</sup>、加藤美美乃<sup>1)</sup>、大住理沙<sup>1)</sup>、  
藤原智洋<sup>3)</sup>、国定俊之<sup>3)</sup>、平沢晃<sup>1)2)</sup>、尾崎敏文<sup>3)</sup>

<sup>1)</sup>岡山大学病院 臨床遺伝子診療科

<sup>2)</sup>岡山大学大学院医歯薬学総合研究科 臨床遺伝子医療学

<sup>3)</sup>岡山大学病院 整形外科

**G-08 神経線維腫症 I 型における診療ネットワーク、当院での取り組み**

緒方 大<sup>1)</sup>、岩田慎太郎<sup>2)</sup>、渡辺祐子<sup>3)</sup>、平田真<sup>4)</sup>

<sup>1)</sup>国立がん研究センター中央病院 皮膚腫瘍科

<sup>2)</sup>国立がん研究センター中央病院 骨軟部腫瘍科

<sup>3)</sup>国立がん研究センター中央病院 小児腫瘍科

<sup>4)</sup>国立がん研究センター中央病院 遺伝子診療部門

## G-09 東京医科大学病院における神経線維腫症に対する包括的診療

鈴木 崇<sup>1)</sup>、森地 振一郎<sup>1)</sup>、堺 則康<sup>2)</sup>、稲垣 夏子<sup>3)</sup>、加藤 陽久<sup>4)</sup>、  
伊藤 謹民<sup>5)</sup>、中澤 はる香<sup>1)</sup>、清水 里枝<sup>1)</sup>、渡邊 由祐<sup>1)</sup>、高松 朋子<sup>1)</sup>、  
鈴木 慎二<sup>1)</sup>、奥野 博庸<sup>1)</sup>、石田 悠<sup>1)</sup>、小穴 信吾<sup>1)</sup>、山中 岳<sup>1)</sup>

<sup>1)</sup> 東京医科大学病院 小児科・思春期科、<sup>2)</sup> 東京医科大学病院 皮膚科、  
<sup>3)</sup> 東京医科大学病院 遺伝子診療センター、<sup>4)</sup> 東京医科大学病院 脳神経内科、  
<sup>5)</sup> 東京医科大学病院 形成外科

シンポジウム 14:40 - 15:50

### 多職種・多診療科による NF1 の包括的診療

座長 松尾 宗明 (佐賀大学医学部小児科)

## S-01 難病患者の就労に関する課題について

三原睦子

佐賀県難病支援ネットワーク

## S-02 NF1 患者さんやご家族との遺伝カウンセリングでの関わり

馬場遥香<sup>1)</sup>、酒井恵利<sup>1)</sup>、小野智愛<sup>1)</sup>、浄弘裕紀子<sup>1)</sup>、堀田純子<sup>1,2)</sup>、山下朋代<sup>1,2)</sup>、  
瀬戸俊之<sup>1,2)</sup>

<sup>1)</sup>大阪公立大学大学院医学研究科 臨床遺伝学

<sup>2)</sup>大阪公立大学大学院医学研究科 発達小児医学

## S-03 大学病院整形外科における神経線維腫症 1 型患者診療の実情解析

ーフォローアップと他科併診についてー

生越章<sup>1,2)</sup>、有泉高志<sup>1)</sup>、村山雄大<sup>1)</sup>、宮崎友宏<sup>1)</sup>、大池直樹<sup>1)</sup>、川島寛之<sup>1)</sup>

<sup>1)</sup>新潟大学整形外科、<sup>2)</sup>新潟大学地域医療教育センター魚沼基幹病院整形外科

## S-04 名古屋大学 NF1 診療ネットワークにおける小児科の取り組み

城所博之

名古屋大学医学部附属病院小児科学

一般演題Ⅲ 15:55 - 16:45

座長 谷戸 克己 (佃リバーシティ皮膚科)

G-10 セルメチニブ投与で複数の副作用が生じた叢状神経線維腫の1例

肥田時征、宇原久

札幌医科大学 皮膚科

G-11 東京医大皮膚科におけるセルメチニブの使用経験：0歳時発症の叢状神経線維腫に対する投与例

堺則康<sup>1)</sup>、中村百恵<sup>1)</sup>、原詩織<sup>1)</sup>、松村一<sup>2)</sup>、水井徹<sup>3)</sup>、後藤浩<sup>3)</sup>、稲垣夏子<sup>4)</sup>、森地振一郎<sup>5)</sup>、原田和俊<sup>1)</sup>

1) 東京医科大学病院 皮膚科、2) 東京医科大学病院 形成外科、

3) 東京医科大学病院 眼科、4) 東京医科大学病院 遺伝子診療センター、

5) 東京医科大学病院 小児科・思春期科

G-12 神経線維腫症 1型における叢状神経線維腫に対するセルメチニブ塩カプセルによる治療経験

江原由布子、吉田雄一

鳥取大学医学部感覚運動医学講座 皮膚科学分野

G-13 レックリングハウゼン病と鑑別を要した Piebaldism の一例

平山愛里彩<sup>1)</sup>、太田有史<sup>1)</sup>、渡邊淑識<sup>1)</sup>、谷戸克己<sup>1)</sup>、延山嘉真<sup>1)</sup>、朝比奈昭彦<sup>1)</sup>、金子実基子<sup>2)</sup>、川目 裕<sup>2)</sup>

1) 慈恵医大 皮膚科、2) 慈恵医大 遺伝診療部

G-14 神経線維腫1型 (Neurofibromatosis 1:NF1) 患者に生じた皮膚神経線維腫の臨床病理学的検討

松田亜依<sup>1)</sup>、古賀佳織<sup>2)</sup>、古賀文二<sup>1)</sup>、今福信一<sup>1)</sup>

1) 福岡大学医学部皮膚科学教室、2) 福岡大学病院病理部

共催シンポジウム 16:50 - 18:00

## NF1の移行期医療

(アレクシオンファーマ合同会社 メディカルアフェアーズ本部)

座長 今福 信一 (福岡大学医学部 皮膚科学教室)

### CM-01 ライフステージに応じた神経線維腫症1型患者の診療

武内俊樹

慶應義塾大学病院母斑症センター 慶應義塾大学医学部小児科

### CM-02 NF1の移行期医療について～臨床遺伝専門医の視点から～

瀬戸俊之

大阪公立大学大学院医学研究科臨床遺伝学

### CM-03 神経線維腫症1型(NF1)の移行期医療 - 皮膚科の立場から -

吉田雄一

鳥取大学医学部感覚運動医学講座皮膚科学分野

### CM-04 本邦における成人NF1患者診療の未来像

西田佳弘<sup>1)</sup>、城所博之<sup>2)</sup>、森川真紀<sup>3)</sup>、武市拓也<sup>4)</sup>、

大岡史治<sup>5)</sup>、野々部典枝<sup>6)</sup>、神戸未来<sup>7)</sup>、久島周<sup>8)</sup>

<sup>1)</sup>名古屋大学リハビリテーション科、<sup>2)</sup>名古屋大学小児科、

<sup>3)</sup>名古屋大学ゲノム医療センター、<sup>4)</sup>名古屋大学皮膚科、<sup>5)</sup>名古屋大学脳神経外科、

<sup>6)</sup>名古屋大学眼科、<sup>7)</sup>名古屋大学形成外科、<sup>8)</sup>名古屋大学親と子どもの心療科

閉会の辞 18:00 - 18:05

大会長 松尾 宗明